

# 令和3年度病害虫発生予察注意報第5号

令和3年7月2日  
愛知県 県

作物名：ブドウ

病害虫名：べと病

1 発生地域 県内全域

2 予想発生程度 やや多い

3 注意報発表の根拠

(1) 6月下旬に県内18ほ場で行った巡回調査において、発病葉率が1.00%（平年0.22%、前年0.22%）で過去10年と比較して2番目に高く、発生ほ場率が27.8%（平年7.3%、前年11.1%）で**過去10年と比較して最も高かった**。

(2) 7月1日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され、本病の発病に好適な条件が続く。

4 防除上注意すべき事項

(1) 発病葉（図1）、発病果（図2）は伝染源となるので、園外に持ち出す等、適切に処分する。

(2) 発病を確認したら、農薬（表）により早急に防除を徹底する。

(3) 本病は、雨水によって感染する。特に**連続した降雨により短期間のうちに一気に広がるため、降雨の合間を利用して予防散布に努める**。

(4) まだ柔らかい葉は本病に感染しやすく、窒素肥料の多い園、若木など遅伸びした新梢に多く発生するため、新梢にも十分農薬がかかるように防除する。

(5) 本病がまん延し、早期落葉すると樹勢が著しく低下し、翌年以降にも影響するので、十分注意する。

(6) 愛知県において、平成23年にQoI剤（アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブル等；FRACコード：11）に対する耐性菌の発生を確認しているため、本病に対して使用することは控える。



図1 葉裏での症状



図2 果実での症状

表 ブドウべと病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	FRACコード
ライメイフロアブル	アミスルブロム	収穫14日前まで	3回以内	21
ランマンフロアブル	シアゾファミド	収穫14日前まで	3回以内	21
エトフィンフロアブル	エタボキサム	収穫7日前まで	4回以内	22
レーバスフロアブル	マンジプロパミド	収穫7日前まで	3回以内	40
I C ボルドー 4 8 Q	銅	-	-	M01
I C ボルドー 6 6 D	銅	-	-	M01

成分ごとの総使用回数に注意する。

FRAC コードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRAC コードの詳細は [https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code\\_pdf01\\_2021.pdf](https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01_2021.pdf) を参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

## 5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085 (内線471)